

丸岡観光ボランティアガイド広報誌

# お天守だより

第5号

## もう一つの自慢

### 天守から見える丸岡の町並み

会長 水崎亮博

丸岡城の案内は野面積みの天守台、石瓦の屋根、二層三階のバランスの良い望楼型の天守など構造的な特徴を説明することが多い。また私は三階に待機してそこからの丸岡の町並みを案内するようにしている。

福井地震にあつて、かつての城下町の面影は薄れているが、城を取り巻く五角形の内濠のふちは道路で残され、神明門のあつたタブの木のあたりの外濠も見える。町歩きをしてもらう代わりに天守から町を説明するのである。「見て下さい。この町には高い建物がないでしょう。この町には四階建て以上のビルディングはありません。瓦屋根の町並みが美しく見えませんか。どこからでもこの天守が見えるのです。」丸岡の人たちがこの城を中心に生活していることを熱く語るのです。

これは自己陶醉、自己自慢かもしれないが、自分たちが誇りに思つてこそ、この城の存在価値が高まるのだと思つていきます。

## 丸岡城のルーツ、豊原寺

副会長 大霜徹夫

ガイドの際、「あの東の山並みの中腹に、豊原三千坊と称された大寺があつたのですが、織田信長により全山焼かれてしまい、そこに築城を命じられた柴田勝豊が、これからは山城より平地の時代だと、四キロメートル離れた当地に移築し出来たのがこの丸岡城です。」と説明すると、みんな興味ある顔を見せる。

そこで、現在の丸岡町の多くの寺や住民が豊原から移住して来て、地名にも残っていることなどを話すのだが、観光客は仕方ないとして、地元の人が始どころした事実を知らず、また関心も持っていないことにいつも残念な思ひが募る。

今は廃寺の豊原だが、一三〇〇年の歴史を有し丸岡のルーツであることを、丸岡町田屋にある『豊原三千坊史料館』を訪ねて頂き、少しでも知って欲しいと願っている。



## ろう者対応について

坂本美恵子

丸岡城のある坂井市では“誰もが笑顔で暮らせるまちづくり”をモットーに、平成三十一年三月『坂井市手話言語条例』が制定されました。そこで当協会は、ろう者など聴覚に障害がある方が見えた時、如何にもてなしすれば良いかを知るために、坂井市市民福祉部の澤村氏(ろう者)をお招きして手話講座を開きました。内容は“ろう者の理解と簡単な手話を覚える”です。

十一月二八日午後2〜3時の短い時間でしたが、「手話を知らなくても思いやりの気持ちを持って接すれば通じること」「コミュニケーションは手話や言葉だけではないこと」など学びました。今まではいつも歴史の勉強が主で、こういう学習会は初めてでした。

聴覚障がい者は見た目では分かりません。今まではろう者に会うのが初めてという会員が殆どでしたが、身近に手話に触れ、とても有意義な学習会となりました。最後は『あいさつ』『ありがとう』『待つて下さい』などの簡単な手話を皆でやりました。これをきっかけにさらに聴覚障がい者への理解を深め、“(聴覚障がい者対応) おもてなしマニュアル”のようなものを作成していけたら良いと思います。

## 一乗城山にチャレンジ

井上弥生子

昨年のガイド協会の研修旅行は、新型コロナウイルスの影響で近間の一乗谷朝倉氏遺跡になりました。一行は復元町並と遺跡の背後の丘陵、一乗城山(標高473m)に分かれ、私は、ちょうどNHKの大河ドラマ麒麟がくるで、主人公の明智光秀も登ったであろう一乗城山にチャレンジしました。

この時、整備された登山道があると思つていたのです。ところが道は段々と険しくなり源さんからストックを借りるなど仲間助けられ山頂までたどり着きました。そこで足羽山を遠くに見ながらお弁当をいただき下山になりました。本当の危険は下山にありました。下山は登ったときと別の最短ルートを選んだからかもしれません。足を滑らせ体が一回転して、あわや谷底へヘリコプターで吊り上げてもらうしかないと思いましたが、なんとか無事に下山することができました。数年前に大病しましたが、今後何かにチャレンジしたいですね。



丸岡城天守の転用石

松本盛博

三月中旬、函館から来られたお客様に、「この丸岡城には転用石はありませんか」と聞かれました。早速天守台石垣の転用石へと案内しました。転用石は築城時に「風水の厄払い石」「石垣用石材の不足で、他用途のものを転用した石」「制圧した勢力や反対勢力の墓石等を目立つ所に積む、いわゆる見せしめ石」として積まれました。



丸岡城の転用石は、天守台の南側最上部(天井部)の西よりに、墓石「宝篋印塔の台石」を逆さにして積みまれています。墓石を逆さに(逆転の発想)することで、

けがれや災いを取り除く「難を転じて福となす」の意味があり、風水の厄払いが目的で積まれたものと考えられます。丸岡城天守の鬼門(北東部)には不明門(現在は他の場所に移築)と八幡神社(入城券売所横)があり、裏鬼門(南西部)には転用石があり、これらが天守をお守りしていたのかも知れません。

因みに明智光秀が築城した福知山城の天守台に、転用石が約五百個も積みまれました。現在もその一部の転用石が観光客の目を楽ませています。

ガイド体験談

お客様の言葉が励み

戸田菊栄

丸岡城のガイドを始めて一年になります。お城に興味のなかった私がガイドになったのは、この丸岡が、お城があるだけじゃなく、豊原や称念寺も絡んだ壮大な歴史の中にあつたことを知り、私も伝えたいと思ったからです。

ガイドをするようになって、丸岡城が大好きになりました。お客様が、このお城は本当にお城って感じだね。コングリートじゃないものね。歴史を感じる。いい形だ。などと言ってくださり、私もますます丸岡城の良さを実感してくるようなわけです。

ある時、年配のご夫婦がとても熱心に聞いて下さり、「旅先でガイドさんの話を聞くのと聞かないのとでは充実感が違うね。ありがとう。」と言っていました。本当にうれしかったです。本日で終息を願うばかりですが、落ち着いたら皆さんも是非、ガイドしてもらってください。



丸岡城ガイド・ごぼれ話

水野信好

観光客からよく尋ねられる質問をQ&A集にした「ツワブキの花」から今回は国宝の話題二つを紹介します。

③最古の天守がなぜ国宝ではないのか？

観光客の質問に特にドキッとするのが「丸岡城は最古の天守なのになぜ国宝ではないのか？」です。ガイド仲間はどうのように答えられているのでしょうか。最古に対しては色々言い訳をするより柴田勝家始末記の天正四年説を持ち出すしかないです。現在の国宝推進事業で速やかに国宝になってしまえばすっきりしますが。また先日松江城のボランティアガイドの皆さんが丸岡城に研修旅行に来られたとき(2017.11.14)、松江城天守が国宝になってから観光客は増えたかを聞くと、とても増えたとのこと。羨ましい限りです。

さて、国宝に選ばれるにはハードルが高いというのは以下の通りです。建造物の場合、重文の指定基準は①意匠的に優秀②技術的に優秀③歴史的に価値が高い——など5項目のいずれか1項目に該当し、かつ、「各時代または類型の典型になるもの」。重文のうち、国宝に選ばれるのは「極めて優秀

④国宝の天守、以前はいくつあった？

天守は明治に至りそのほとんどが破却され、何らかの経緯で二十城が残りしました。これらの天守は当時の国宝保存法に基づき国宝に指定されました。その後太平洋戦争で名古屋・大垣・和歌山・岡山・福山・広島各城が焼失、さらに松前城が類焼して、現在では十二城残すのみとなりました。

この十二城は戦後の文化財保護法でいったん重要文化財に指定され、その中から特に秀でた四城が国宝に指定されました。そして2015年7月松江城が新たに追加され、現段階で国宝指定は五城です。

